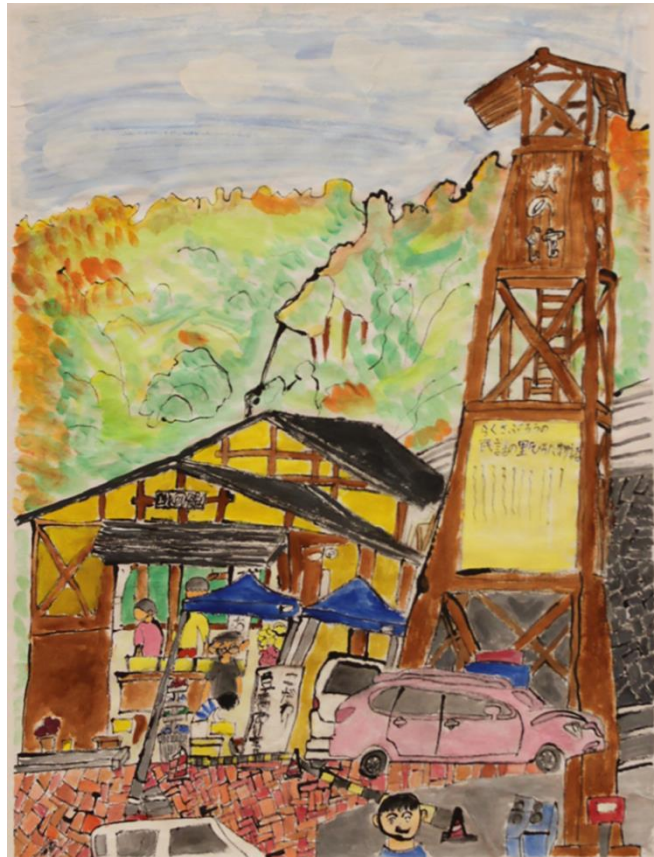


地方公会計の活用のあり方

～地方公会計の活用事例紹介～



※砥部町を描く絵画展(生徒の部)より

平成28年4月28日
愛媛県砥部町会計課 田中弘樹

1 予算特別枠の創設

～中長期的な視点でコストマネジメント～

2 住民に伝える

～まちの広報誌より～

3 一歩進んだ「財政の見える化」へ

(バランスシート探検隊、ふせん紙仕訳ゲーム、SIM2030)

～住民と一緒に考える～

1 予算特別枠の創設

～中長期的な視点でコストマネジメント～



※砥部町を描く絵画展(生徒の部)より

(1)平成28年度当初予算編成方針

平成28年度当初予算編成方針の公表にあわせて、「公共施設のコスト削減に係る平成28年度予算について」を砥部町ホームページにて公表した。平成27年10月5日

- 中長期的な視点で公共施設のランニングコスト低減に寄与する取り組みに、全体で2千万円の予算特別枠を設ける。
- コスト低減枠のほか、公共施設の長寿命化を図る改修等があればさらに予算枠を拡大する。

(2)平成28年度当初予算

公会計(財務書類)から得た情報を予算編成に活用することにより、長期的なコストの削減につながる事業を積極的に進めることで、町財政の「見える化」を図っていく。平成28年2月当初予算の概要より

①施設の長寿命化にかかるもの

- ・庁舎資材倉庫外部改修工事設計監理
- ・高齢者生活福祉センター屋根、軒下修繕
- ・保健センター屋根防水シート修繕
- ・広田地域簡易給水施設等改良設計工事
- ・峡の館ポーチ改修工事
- ・橋梁長寿命化修繕設計委託・工事
- ・高市団地外部補修工事設計委託
- ・八倉ゲートポンプ樋門修繕工事
- ・砥部小学校等改修工事設計委託
- ・広田小学校プール防水シート改修工事設計委託
- ・千里地区公民館改修工事設計委託

②施設のランニングコスト低減

- ・庁舎照明器具改修工事設計委託
- ・伝統産業会館作品展示室照明器具取替工事
- ・温泉浴室照明改修工事

効果の測定は、平成28年度決算分の施設別・事業別財務諸表を使って行うため、平成29年度に実施予定。

(3) その他

- ✓ 公共施設の更新問題を織り込んだ中長期財政計画(シナリオ別)
 - ✓ 施設カルテ、施設更新時期別ポートフォリオ
 - ✓ 砥部町のホームページそのものをアニュアルレポートに見立てる。
 - ✓ 施設別・事業別財務諸表の充実(ロジックモデル、シナリオプランニング、上位施策への
貢献度、優先順位など)

 - ✓ 債務償還能力、予想キャッシュ・フロー計算書
 - ✓ 地方債償還スケジュール
 - ✓ 財務諸表分析の視点
- 人事異動があってもすぐにできる統一基準版の雛形などできないか。
- 参考 砥部町財務諸表ハイライト2014
<http://www.town.tobe.ehime.jp/site/zaisei-jyoho-arukikata/>

2 住民に伝える

～まちの広報誌より～



※砥部町を描く絵画展(生徒の部)より

○まちの広報誌で公会計特集

まちの広報誌にて、多くの住民の方に「公会計」を知ってもらう取り組みを始めた。平成27年6月号の特集を皮切りに、毎月1~2ページ程度の連載を現在も続けている。

別冊 広報とべ

特集

公会計をもっと身近に!

来月号の広報誌から、連載「公会計をもっと身近に!」がはじまります。この特集ページは取り外しができるので、ぜひ保管しておいてくださいな。

- 1 -

別冊 広報とべ

なぜ 公会計 が必要な?

公共施設の現状 公会計って?

公会計は、平成29年度をめどに全国的に一斉に新しい制度に変わります。(詳細は来月号以降で)

別冊 広報とべ

新地方公会計制度 における財務諸表

公会計と異なったいろいろな意味がありますが、ここでは、新地方公会計制度における財務諸表について説明しています。

4つの表の関係

実地部門を別々に説明

資産の形成につながる支出

経費形成以外の支出

●キャッシュ・フロー計算書

経常的収入	12億円
公共債発行収入	4億円
投資・財務的収入	2億円
営業外収入	2億円
経常的収入	20億円
経常的支出	18億円
経常的収入超過額	2億円

●バランスシート

資産	41億円
負債	6億円
純資産	35億円

●行政コスト計算書

経常的コスト	6億円
経常的収入	4億円
経常的収入超過額	2億円
経常的コスト	6億円
経常的収入超過額	2億円

●経常的資産計算書

経常的収入超過額	3億3千3百円
経常的収入超過額	3億3千3百円
経常的収入超過額	3億3千3百円
経常的収入超過額	3億3千3百円

- 4 -

※早稲田大学パブリックディスクロージャー表彰2015・・・アウトリーチ部門にて努力賞を受賞。

3 一歩進んだ「財政の見える化」へ

(バランスシート探検隊、ふせん紙仕訳ゲーム、SIM2030)

～住民と一緒に考える～



※砥部町を描く絵画展(生徒の部)より

(1) 砥部町版バランスシート探検隊、ふせん紙仕訳ゲーム

平成27年8月6、7日開催 参加者6日63人、7日43人

バランスシート探検隊は、レクチャーノートでまちの財政や公共施設の老朽化問題、人口減少問題などを勉強したあと、実際に公共施設を巡っていくイベントである。レクチャーノートには施設別財務諸表などのデータを記載。その記載内容を理解するため、一つひとつの取り引きがどのように仕訳され、財務諸表がつくられていくのか？ふせん紙を使ってゲーム感覚で体験していく。



※平成27年度のバランスシート探検隊は、安心・安全をテーマに実施。

上下水道、道路・橋梁、消防施設・設備、災害時避難場所となる学校体育館などを見学。

(2)SIM2030inとべ

平成27年10月24日開催 参加者50人

参加者は、架空自治体の幹部(総務部長、財務部長、建設部長など)になって、予算確保や事業削減、優先順位付けなど部署間調整を体験する。それぞれの幹部は、所管の事業を持つ中で、社会保障費の増大や公共施設の老朽化、新しい政策課題などに対応するため、他の部長と対話しながら事業を取捨選択していく。25分を1ラウンドとし、1ラウンドで5年が経過する設定である。参加者は、10年分の予算案を完成させる。財源が不足する中、市長のマニフェストは守れているか、どの事業をあきらめるかなど短い時間での決断が次々迫られる。決断が遅れると、地方債を発行することになり、地方債が多くなりすぎるとゲームオーバーとなる。

1ラウンド(5年分)の予算について、チームの意見がまとまると、2チーム1組となり、それぞれ行政役と議会役を交代で務め、行政役は作成した予算を議会役に説明する。上手く説明できない場合は、議会役に否決されてしまう。最終的に自分たちの選択の積み重ねでつくられた市は、どんな強みを持っているか？

参加者からは、「最初にどういう市にするか決めておかないと市の強みが分からなくなる」、「将来にツケを残さないためにも優先順位が低いものはあきらめないといけませんが、それを必要としている住民もいて、どう説明していくかとても難しいと感じた」また、バランスシート探検隊とSIM2030を体験した大学生からは「公会計を知るということは、選挙マニフェストを読む力に繋がるのではないかと、今後も興味をもっていきたい」といった感想が寄せられた。



参考① 日刊建設工業新聞2015年11月24日記事より

○老朽化対策予算特別枠 愛媛・砥部町2千万円を別枠計上

総務省提唱

地方自治体が保有する公共施設の老朽化対策を進めるために総務省が提唱していた「予算要求特別枠」を創設する自治体が出てきた。第1号となったのは愛媛県砥部町。16年度予算の編成で、施設のランニングコストを低減する事業を対象とした特別予算枠を設けた。

特別枠は、施設統廃合など思い切った老朽化対策を進めるため、通常の予算要求枠とは別に、知事や市町村長が直接判断する予算枠として創設し、予算要求を行いやすくするのが狙い。固定資産台帳や財務書類のデータを予算編成に活用するのが特徴だ。

砥部町が16年度予算要求・査定で設けたのは「コストマネジメント予算特別枠」。施設の長寿命化を図るため、ランニングコストの低減に寄与する改修事業に対象を限定し、上限は2千万円。10月に庁内の各部局に対象事業の検討を要請した。

～中略～

投資の効果測定も施設別、事業別財務諸表を使って行う予定だ。統廃合といった大型案件が出てくるのは、16年度に予定している公共施設等総合管理計画の策定後になる見通しだ。(一部略)総務省は、人口減少や老朽化を踏まえたインフラの更新・集約を進めるため、自治体に固定資産台帳や財務書類によって優先順位を付けてもらう。すべての自治体に対し、台帳は15年度、財務書類は17年度までに作成するよう求めている。

財務書類によって、施設ごとの老朽化比率を算出できるようになるほか、現状のまま施設を維持するケースと統廃合したケースの将来コストが比較可能になる。こうした分析を踏まえ、予算要求特別枠で財政健全化につながる老朽化費用を要求してもらうのが同省の狙いだ。

愛媛県砥部町



愛媛県伊予郡砥部町宮内1392番地
<http://www.town.tobe.ehime.jp/>